

# 室蘭地区 TC U-12

## 静岡市長杯

### 第42回清水チャンピオンズカップ

### 少年サッカー大会報告書

## 大会結果

### ☆予選リーグ

第1試合	室蘭地区 TC	0-5	アルビレックス新潟 U12 (新潟県)
第2試合	室蘭地区 TC	0-4	バディーSC (神奈川県)
第3試合	室蘭地区 TC	0-1	Vivace FC (静岡県)

### ☆4位リーグ

第1試合	室蘭地区 TC	0-1	アスクラロ沼津 U12 (静岡県)
第2試合	室蘭地区 TC	1-1	アスパガス生駒フットボールクラブ (奈良県)

2014. 12. 20~21  
清水蛇塚スポーツグラウンド



報告者 室蘭地区サッカー協会技術委員 八木橋 淳  
室蘭地区サッカー協会技術委員 山本 隆幸  
室蘭地区サッカー協会4種派遣スタッフ 本間 清晃

# 貴重な経験を糧にさらなる飛躍を！

室蘭地区サッカー協会技術委員 八木橋 淳

この清水チャンピオンズカップは、全国大会のベスト4以上のチーム、各県サッカー協会主催の大会（4県以上の参加）で優勝したチームなどに参加資格が与えられる名誉と権威のある大会です。今回の大会に参加したチームの中には、県選抜チーム、トレセンチーム、強豪クラブチーム、Jリーグ下部組織チームと、試合内容もまさしくチャンピオンズカップという名にふさわしいハイレベルな大会でした。室蘭地区 TC U12は、室蘭地区サッカー協会と清水地区サッカー協会との昔からの友好関係があり、大会実行委員会の推薦で参加させていただき、毎年貴重な経験をもとに大きな収穫を得ています。

例年32チームで3日間開催されておりますが、今年度に限り、各地域大会とのバッティング、開催地の学校行事等の理由により、24チームで2日間での開催となりました。

室蘭地区 TC U12のメンバーは、10月末までは屋外でのトレーニングとマッチを継続的に続けてきましたが、その後は降雪、低温の影響で、室内でのトレーニングを余儀なくされ、広いピッチでのフィジカル面や11人制サッカーでのシステムやポジションなど、不安と期待が入り混じる中での大会参加となりました。

大会では思うような成績を残すことはできませんでしたが、この時期に全国のトップレベルのチームと全選手が交流できたことに大きな意義があり、強豪チームとの試合を通し、ハイプレッシャーの中でのサッカーのベースとなる“止めて蹴る”というプレーの精度、オフ・ザ・ボールでの“観る、観ておく”というボールを受ける前の準備、オフの選手の動きの質、攻守の切り替え（特に攻から守）などの課題も明確になりました。

また、2試合以外は得点差に大きな差があった訳ではなく、むしろイニシアチブを握り攻守に圧倒する場面もありましたが、結果得点を奪えずに勝ちきれない部分があり、1点の重み、勝つことの大変さや難しさを選手、スタッフ共に痛感しました。

さらに、室蘭地区や北海道の中では通用するプレーも、全国のレベルでは簡単には通用しないことを経験できたことは、将来のある選手たちにとっては大きな財産となったことと思います。

今大会、室蘭地区 TC U12は室蘭地区を代表するチーム（選手）として、チームコンセプトを「ハードワーク」とし、「攻守共に最後まであきらめず、気を抜かずにやりきること！」「失敗を恐れずに積極的にプレーすること！」「個の力を発揮しながら、仲間を感じながらプレーすること！」を目標として勝利を目指し全力で戦いました。

大会初日には長距離移動の疲れや緊張もあるためか動きに硬さがあり、ミスからの失点が多く、攻撃面でも消極的な場面もありましたが、試合を重ねるにつれて、攻守両面で必死に体を張る選手、貪欲にゴールを目指し仕掛ける選手、ハイプレッシャーの中、オフで周囲をよく観て良い準備をし、仲間を感じながらプレーする選手が徐々に見られました。

また、清水サッカー協会、理事長の西村さん、三保 FC さん、旅館伯梁さんをはじめ、多くの関係者の方々に大変あたたかい歓迎を受け、充実した遠征となりました。本当にありがとうございました。

U12年代の最終段階として、この時期に全国の強豪チームと多くの試合を出来たことは、私達にとって本当に大きな財産となりました。選手、スタッフはここで得た経験、悔しさを忘れることなく、次のステップに生かすと共に常に向上心を持ち続け、普段の練習から意識して取組んで欲しいと思います。

終わりになりますが、この遠征に際しまして、室蘭地区サッカー協会、4種委員会をはじめ、各少年団並びに3種チーム関係者の皆様方、そして保護者の皆様には深いご理解と多大なご支援、ご協力をいただき心より感謝申し上げます。今後とも室蘭地区のレベルが高まるようスタッフ一同努力いたしますので、今まで以上のご指導、ご協力を宜しく願います。

乱筆乱文ではありますが、選手の奮闘ぶりを簡単にまとめましたのでお読みください。

## 12月19日（金）

前日までの爆弾低気圧の影響から出発が心配されましたが、午前10時50分、概ね定刻通り新千歳空港を出発し、富士山静岡空港へは12時31分に到着、到着後、空港から見える富士山の大きさに選手は皆感動していました。

空港から3日間お世話になる旅館伯梁へはバスで軽食を取りながら移動し、14時10分に到着しました。宿舎到着後は荷物の整理をしたのち、世界遺産でもある「三保の松原」付近を散歩し、当日の練習試合、明日からの大会に備えミーティングを行いました。

17時頃に少し早目の夕食を取り、19時頃より地元三保FCと15分×3本の練習試合を行い、久し振りの広いピッチでクレーではありましたがグラウンドの感触を確かめながら、選手全員が意欲的に取り組んでいました。



また、対戦相手の中には東海TC、中西部TC選手や卒業後に清水Jrユースに進む選手がおり、明日からの大会に向けて良い練習試合となりました。

さて、あっと言う間の1日目ではありましたが、全員遅れることなく行動し、体調不良や過度に緊張する選手もなく、明日からの試合、気持ちは期待と不安で半々ですが、非常に楽しみになってきました。

なお、今回お世話になる宿舎の隣には清水エスパルスのスクールからユースまで使用している練習場や付近に清水エスパルスの練習場があり、また、試合会場へはバスで15分と大変恵まれた環境でありました。



12月20日(土)

☆予選リーグ第1試合

室蘭地区TC VS アルビレックス新潟U-12(新潟県)

蛇塚グラウンド南 9:40キックオフ

リーグ初戦となるアルビレックス新潟U-12(新潟県)は、ご存じJリーグ下部組織チームであり、全日少石川県大会ベスト16と中部日本の強豪8チームが招待されて開催される石川県知事杯中部日本招待少年サッカー大会の優勝チームで広いピッチ上に大きく広がり相手を開かせポゼッションをしてくる。中が空くとシンプルに縦パスを入れ、サイドから中からと巧みにボールを回してくる。1thゲームで若干動きが固く見える。立ち上がりから左サイドでボールを失い突破されチャンスを作られる。

3分、中央から相手11番に突破されるも佐藤たくが体を張りブロックする。

4分、室蘭の最初のチャンスを迎える。中盤から⑭から⑯とつなぎ⑨のドリブルからゴール前で⑧がファーストシュート相手にブロックされるも、ボールを保持しながら複数の選手がかかわり、室蘭の特徴とする縦に早い攻撃ができた。

5分、相手陣地でボールを奪われカウンター気味で裏を狙へのパスもオフサイド。ラインを高く設定していることは良いが、センターバック2枚とGKの距離感や連携がやや不安定に見える。

8分、危惧した通りDFラインの裏を通される。ゴール右よりからシュートされるもGK⑮がナイスセービングしゴール割らせないが、そのボールはコーナーキックとなり、そのコーナーキックのボールがGKの頭を越され裏でフリーな状態の10番が目覚めるようなで豪快なボレーシュートで失点(0-1)

続く10分、右サイドを破られセンタリングが11番の頭に合い2失点目。(0-2)

13分自陣右サイドで浮き球の処理が遅く奪われ11番が突破するもGkがストップ前半終了、0-2でハーフタイムを迎える。

『止める、蹴る』の精度が比べると足りていない。レベルの差を感じる。

後半開始早々、フィジカルの強い10番の突破が抑えられず数回シュートを打たれる展開。また、味方同士の距離が遠く切り替えも遅いため効果的な守備ができていない。

後半3分、その10番にロングシュートを打たれるもGKがセービングしコーナーキック。11番のコーナーキックがマイナス気味に流れ、後ろから来た7番が左足で放ったシュートが山なり気味でゴールに向かい、キーパーの頭上を越え触るもゴールを割り3失点目(0-3)

11分左サイドから簡単に突破され失点、(0-4) 続けて

12分相手シュートをGKがキャッチしたかには見えたがファンブルしてしまい、相手にこぼれ球を詰められ失点。(0-5)

昨日のトレーニングマッチから攻撃をけん引する⑨が強引に仕掛けシュートまでいくが枠をとらえきれない。0-5で終了。

点差以上に、力の差を感じた試合であった。『止める、蹴る』精度、『無理、無駄』のないサッカーであり小学生と思えないレベルであり、さすがJの下部組織と思わせる内容であった。また、指導者に聞いた話では、ベンチ入りの選手の中から9人がアルビレックス新潟のジュニアユースに進むということでハイレベルなチームと対戦できたことは貴重な



経験となっただろう。また、オフザピッチからもクラブの立ち位置を意識させている指導を目の当たりにできた。(見ている人たちに感動させるプレーをしていたか?という問いかけ等・・・)日頃、オフザボールの時に周りを見ておくことを伝えているが、見なくてもプレーが成立していることが多い環境であり、意識が薄く、レベルが高くなればなるほど周りを見ていないと良いプレーにつながらないし、サッカーにならない。ボールに寄ること、声を出すことや、パスを出したら動くことなども同様のこと。常にアラートなトレーニング環境やゲーム環境の中で培われることなので何よりも積み重ねが必要と感じた。

## ☆予選リーグ第2試合

## 室蘭地区TC VS バディーSC (神奈川県)

蛇塚グラウンド南 11:40キックオフ

初戦を落とし、上位リーグに進むには是非とも勝ちたい試合であった。

雨が降ったり止んだりする中でのキックオフ。対戦相手のバディーSCは、毎年、関東圏を中心に32チームの強豪が招待されて開催される古河武井杯全国招待親善サッカー大会の優勝チームで、室蘭TCに比べ体格が大きくスピードもある選手が多く、パスやテクニックではなくシンプルにボールを前線に送るサッカーを展開してきた。

前半3分、バイタルエリアに進入されるが果敢なディフェンスでボールを奪う。しかし、奪った後のボールを味方に繋ぐことができず再び相手へ。右サイドからドリブルで仕掛けられシュート。失点となった。

また、前半9分、1失点目同様ボールを奪った直後に再び拾われ左サイドを突破される。センタリングをあげられたボールが味方に当たりオウンゴールとなった。(0-2)

その後、相手の早いプレスになかなか思うようにコントロールできずに奪われるシーンが何度か見られた。しかし、相手のプレスの早さにも少しずつ順応できるようになると、奪った後味方にすぐ繋ぐようになる。ボランチ10番や7番が積極的に味方に関わり、奪った後、すぐに相手の裏のスペースにスルーパス。パスが通るもシュートまで持ち込むことはできなかったものの中盤での体を張ったプレーからチャンスが生まれた。



後半開始直後、相手のプレスにも慣れ徐々にパス回しにも余裕が見えた。ボランチに入った11番が中盤でボールを奪うと、押し上げてきた右SB6番にさばく。6番がダイレクトで前線ライン際にいる8番の足元に。11番がパスを出した後そのまま右サイドに寄りパスを受ける準備をしていたことから、8番がダイレクトで11番に横パス。縦に抜けた8番と11番のワンツーが通りセンタリング。ゴールならずともチャンスを作った。

また、後半10分、CB3番がボールを奪うとスペースにドリブル。FW14番にくさびを入れるとダイレクトでボランチに落とす。その間に左サイドをオーバーラップしていた13番にボランチから縦パス。相手が準備仕切れない状態で攻め込むことができた。

結局、得点に結び付かなく後半も2失点し結果は0-4で終わった。

成果としては、相手の早いプレスからダイレクトの意識が高まり、攻撃面におけるオフザボールの動きに変化が見られたことが挙げられる。しかし、サポートの質（距離・角度・タイミング）や決定力、守備の面でのプレスの遅さやポジショニングに課題が残る試合であった。

### ☆予選リーグ第3試合

### 室蘭地区 TC VS Vivace FC (静岡県)

蛇塚グラウンド南 13:40キックオフ

対戦相手の Vivace FC は、サッカー王国静岡で今年度の全日少静岡大会の優勝チームである。3 試合目でその日の最後の試合であり、疲れや、冷たい雨にうたれる悪いコンディションの中であったが、力を出し切り、チームとしてまず初得点、そして1勝をめざし試合に挑んだ。

序盤から優勢に試合を進める。ファーストシュートは④がミドルサードでインターセプトし思い切りよくシュートをするが左に外れる。

3分左サイドから出たスルーパスが⑧にわたるがコントロールが大きくなりシュートが打てない。前の2試合がハイプレッシャーの中での試合だったため球離れがよく、テンポよくボールが動くサッカーになってきている。

チャンスを作り優勢に試合を進めるも決定力不足で無得点。0-0で前半を終える。

後半、開始しテンポよくボールが回り、相手DFの裏に⑨から⑭へのタイミングよくスルーパスが出るが、長くなりGKにキャッチされる。何とか1点がほしくなり、自分が自分ごと、個人でボールを持つ時間が多くなり、かかわりが少ない。『ただドリブル』しているように見える。相手も選択肢がドリブルだけであるため対応がしやすい。



後半11分相手陣地でのドリブルが悪い形でボールを奪われてしまいカウンターで失点してしまう。全体的に重心が前がかりになっておりリスクマネージメントも足りていなかった。

残り時間、何度かチャンスを作るも得点できず。0-1で終了。試合は優勢に進めていたが、カウンターで相手の唯一のシュートで失点してしまう惜しい試合であった。

室蘭の選手はドリブルで局面を開くことを嗜好とする選手が多く、またそれは良いプレーとして、地元の指導者からも評価を受けていた。自分もドリブラーばかりだなーと他のチームと比べると改めて目に映った。ドリブルは良いか悪いかは別として、ノーギャジで守備の集まっているところに無謀に仕掛けることがあったため、仕掛ける局面の判断は必要である。また、一度止まって、周りを見るプレーを入れると味方とコミュニケーションを取ることもでき、スローダウンすることでテンポも抑揚が効き必要なプレーと思われる。

12月21日(日)

☆4位リーグ第1試合

室蘭地区TC VS アスクラロ沼津U12(静岡県)

蛇塚グラウンド北 9:50キックオフ

対戦相手のアスクラロ沼津 U12 は日本サッカー界の功労者である釜本邦茂さんが主催し、大阪府内外の強豪 20 チームが招待され開催される。KAMAMOTO SUMMER SOCCER FESTIVAL2014 の優勝チームである。

昨日の1試合目同様、入りが悪くルーズボールの奪いなど、一步一步、遅れているように見える。相手に序盤押し込まれる時間が過ぎる。

4分⑩が勢いに乗ったドリブルから思い切りよくシュートを放つが左にそれる。

相手ボール保持者にアプローチするもテンポよくボールを回されファースト DF が制限をかけることができない。そのためセカンド DF も狙いのあるインターセプトができない。なかなか、中盤でボールが奪えない。そんな中、9分右サイド⑧相手2人をかわしシュートまで持ち込む、惜しくもGKにはじかれるも、ルーズボールを④が思い切りよくシュートを放つがGKにキャッチされる。前線の選手はフィニッシュまで持ち込むがGKが堅守でなかなかゴールを割らせてもらえない。ただし、徐々に選手たちに余裕が出てき、ボールを持っても慌てず、相手を見て外したりとサッカーらしくなってくる。センターバック③からの正確なパスによる組立てや、ボランチの⑩のボール受ける回数が増えサイドが詰まったら展開を変えるなど、縦に急ぐ攻撃にアクセントとなる。

15分、右サイド⑭のCKをファーサイドの⑦がフリーで頭に合わせるが惜しくも右のポストをたたく。押しているが1点が遠い。0-0で前半を終える。



後半も開始早々優位に進める。自陣ゴール前から⑧からの裏へのパスが⑩が相手DFを振り切り左サイドの⑨へのスルーパス、コントロールが大きくなり角度がなくなったがシュートまで打ち切る。ゴールは奪えなかったが、手数をかけない効果的なダイレクトプレーであった。相手陣地で⑬がインターセプト、そのボールが⑨にわたり左足でシュートを放つ

がGKに止められる。再三⑨の突破からチャンスを作る。

16分センターサークル付近でのプレスが甘く突破される。センターDFが一発でかわされてしまい突破されてしまう。カバーリングもポジションが悪く追いつけない。ゴール前まで運ばれキーパーと1対1になり落ち着いて決められる。(0-1)

その後1点を返そうと⑨が気を吐き、強引な突破で3人をかわしてのシュートや、ゴール前でファウルをもらい直接FKを放つなど粘るも、相手の堅実なGKがゴールを割らせてくれない。0-1のまま試合終了。

前日の3試合目同様、一瞬のすきを突かれ決められ、惜しいチャンスを決めきれなかった自分たちの詰め甘さが出た結果だった。

☆4位リーグ第2試合 室蘭地区TC VS アスパガス生駒フットボールクラブ(奈良県)  
蛇塚グラウンド北 13:10キックオフ

4位リーグ初戦を落とし、この試合2得点以上で勝たなければ順位トーナメント決勝に進むことができない、まさに背水の陣で挑んだ試合であった。4位リーグと言えどもレベルの高いチームには変わりなく、厳しい試合が予想される中キックオフ。対戦相手のアスパガス生駒フットボールクラブは、静岡県内外の強豪48チームが招待されて開催される今年で29回目となる富士山カップ少年少女サッカー大会の優勝チームである。

前日のハイプレスにも慣れてきており、相手の前で奪う意識がプレーに出る。果敢にインターセプトを狙い、高い位置でマイボールにし、シンプルにつないで攻撃する展開が続いた。

まずは前半6分、左SB13番のオーバーラップからチャンスが生まれた。また、FW14番が足元でボールを受けキープ。右サイドを駆け上がる8番にスループアスでチャンスを演出。センタリングを上げるところまでは行ったが、精度が低くシュートまでは繋がらなかった。続く10分、10番の質の高いオフザボールの動きから相手DFのマークをはずし、8番からダイレクトでパスを受ける。そこからスループアスを通しチャンスメイク。さらに、FW9番のドリブルから、またも右サイドから8番が抜け出しスループアスが通る。

再三の攻撃でリズムを作るも、いずれもラストパスやシュートの精度を欠き得点することができなかった。

そこからリズムが崩れ相手ペースへ。前半12分、右サイドからワンツーで崩されセンタリングを上げられてしまう。マークを付き切れず押し込まれて先制点を許した。ほぼ、相手陣内でゲームを展開していただけない痛い失点だった。

後半、なんとか逆転したいと意気込む選手ら。後半2分、CB2番が相手のロングボールをカットし、前線を走るFW9番にロングパスを送る。9番が相手DFを振り抜きドリブルで独走。左足で右隅に流し込む落ち着いたシュートで、今大会待望の初得点を挙げた。



しかし、あと1点取らなくては次がない室蘭TC。ここからリズムを取り戻し、プレスもさらに早くなり、依然室蘭ペースで試合が進んだ。後半8分、数少ない相手の攻撃で、あわや失点というシーンで押し込まれそうになるがキーパーのファインセーブで助かった。

何度かダイレクトでつなぎ、攻撃し続けるもなかなかシュートまで行けず。そのまま試合終了。1点の重みを痛感する最終試合となった。

この試合の成果として、運動量が多く、攻守共に全体が常にボールに関わっていたこと、奪ったあとの確実なつなぎなどが挙げられる。一方で、ボール保持者の選択肢の少なさやキック精度の低さが伺える試合であった。



# 清水チャンピオンズカップの3日間を終えて

室蘭地区サッカー協会4種派遣スタッフ 本間 清晃

この静岡市長杯第42回清水チャンピオンズカップ少年サッカー大会に、スタッフとして参加させていただけたことに心より感謝いたします。今後、この貴重な経験を活かして室蘭サッカーのために尽力していく次第です。

まずは、年間を通して外でサッカーができる本州の子たちをうらやましく感じました。ハイレベルな試合を直接自分の目で見て、北海道のサッカーに足りないもの、逆に通じるものを確かめることができました。

一番に感じたことはボールコントロールの質の高さです。どの選手も確実に「止める」「蹴る」の技術が高く、試合中でも滅多にミスがないことが印象的でした。室蘭TCの場合、失点は全て自分たちのミスからであり、逆に相手のミスを誘って攻撃することがなかなかできませんでした。ミスの多さで試合が決まると言っているほど、基本技術の差が歴然としていました。

また、ボールコントロールと共に「見る」力も優れている感じがしました。判断するにも必ずボール、ゴール、味方、相手、スペース…など見なければいい判断はできませんが、その判断の基となる「見る」ことが確実に身に付いているからこそ、自分で選択肢を広げてプレーできることを改めて感じさせられました。見ていればもっとファーストコントロールが変わってくるだろうし、相手の早いプレスにも対応できると思いました。「止める」「蹴る」に加えて「見る」も同じレベルで指導していかなければならないのかなと感じた部分もあります。

さらにオフザボールの動きの質も考えさせられました。今大会で対戦させていただいたチームのほとんどが、ボールを持っていないときでも常に動き続けていました。攻撃面では必ずギャップに味方がいたり、後ろにサポートが付いていたり、飛び出す選手がいたり、その飛び出した選手のスペースに動いたり、ボールを持っている立場にしてみれば、どうしようか迷ってしまうほど選択肢がたくさんありました。守備の面でもカバーのポジショニングやマークの付き方など微妙に位置を変える選手が多くいました。めまぐるしく変わる状況の中で、よく見てよく考えてポゼッションしている様子がうかがえました。オンでもオフでも、やはり「見る」ことが大切だということを痛感しました。

オンザボールでもオフザボールでも、攻撃でも守備でも「見て、いい判断をして、確実にプレーする」ことが、ハイレベル、ハイプレッシャーの試合では必要であることがわかりました。しかし、それが子ども自身理解していても実際にピッチの中でできるかが全てであり、それをできるようにさせることがいかに難しいことであるかということもわかりました。

今後も室蘭サッカーに携わっていく者として、とても貴重な経験をさせていただきました。これからの指導者としての自分を改善し、成長していけるよう努力していきたいと思

っておりますし、微力ではありますが、室蘭サッカーの更なる発展のためにできる限り力を尽くしていきたいと思っております。

今回ご一緒させていただいた八木橋さんと山本さんには、多々ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げますとともに、常に気にかけていただき、充実した3日間を送ることができたこと心より感謝しております。本当にありがとうございました。

## 大会を終えて

室蘭地区サッカー協会技術委員 八木橋 淳

2日間の大会を通して、多くのことを学ぶことができました。

いくつか課題がありましたが、室蘭の選手は相手からのプレッシャーが掛かった場面での“止めて蹴る”というプレーの精度が低く、ファーストタッチが少し大きくなってしまったり、シュートミスをしたり、パスミスでボールを失う場面が見られました。トップレベルの選手は、そのような場面でも慌てることなく相手の動きをしっかりと見てボールを正確にコントロールし、相手の立ち位置を確認し、次のプレーの選択をしてファーストタッチする場所を決めており、また、相手選手との距離（間合い）を見て、仕掛けるのか、前を向くのか、パスを出すのかなど複数の選択枝を持ちボールを失わないようにプレー（判断）している場面を多く見かけました。また、攻撃時に味方選手への関わりが少なくボールを奪われた際の切替えが遅く、失点する場面もありました。

中でも私が一番気になった事は、オフ・ザ・ボールでの「観る、観ておく」というボールを受ける前の準備、あくまで止める、蹴る、運ぶ技術があることが前提ですが、地区では可能なプレーも準備が悪いとトップレベルでは通用せず、いくら技術があっても常に相手にマークされた不利な状態では慌てて冷静なプレー（判断）が出来ず、一人、二人交わしてゴール前に辿り着いてもフィニッシュの時に余力がなく正確にゴールを狙うことが出来ません。攻守共にオフで周囲をよく観て良い準備をし、少しでも有利な状態（フリーで広い視野を確保し、攻撃方向を向いている状態）でタイミング良く動き出しボールを受けることが出来れば、複数の選択枝を持ち冷静にプレー（判断）することに繋がり技術がさらに活かされると思います。

皆さんご存じのとおり、サッカーではボールを持っている時間よりも、持っていない時間のほうが圧倒的に長く、良いプレーを行える可能性を高くするために、攻守共にボールを受ける、来る前に良い準備を行うことがとても重要になります。

GK についてはポジショニングに課題があり、セービング技術、フィードの場面ではスローの精度判断はあるものの、トップレベルの選手と比較するとキャッチング技術、キックの精度が低く感じられました。

さらに、全チームをとおして言えることですが、コーナーキック等のセットプレーの際に守備の選手が同一視が出来ていなく、ボールウォッチャーになりマークを外され失点する場面が多く見られました。

しかし、これらは同様のことを以前から指摘されており、地区として取り組むべき課題で

あり、トレーニングを重ねて改善することが急務だと思いました。

また、先にもお伝えしたとおりイニシアチブを握り攻守に良い場面もありましたが、結果得点を奪えず勝ちきれない部分がありましたので、室蘭、また、TC 選手としてのプライドを持ち、体を張り気持ちでもタフに戦える選手を目標として欲しいものです。

上記のように課題もたくさんありましたが、1対1の攻撃では厳しい場面でも、果敢にドリブルでしかけ突破をねらう選手、守備では積極的にパスカットを狙う選手、また、落ち着いて身体を入れてボールを奪う選手、オフの選手がオンの選手に関わりを持ち、味方の選択肢を増やす選手が徐々に見られました。これらはトレセン活動のみならず、各チームでの日常のトレーニングの充実が地区のレベルアップにつながり、そうした選手を育ててきたものと思います。

課題を克服し、今まで以上に地区のレベルアップを目指すためには、基礎技術の向上はもちろん、常にハイプレッシャーの中で戦い続ける状況をトレーニングの中から作っていく必要があります。また、指導者のコーチングについても共通認識を図っていき、今まで以上に、選手自身に考え、判断させる力を身につけさせなければ、全国レベルとの差は縮まっても越えることはできないように感じました。

また、オフ・ザ・ピッチの部分では多少羽目を外しそうになる場面もありましたが、会場はもちろんバス、飛行機や旅館での行動も含め、仲間と協力し合い節度を持って行動し、自分の持物もしっかり管理することが出来ました。しかし、食事では量は増えたものの好き嫌いのある選手がいましたので、チームでもご指導宜しくお願いします。

最後になりますが、全国との差が少しでも縮まるよう、室蘭地区全体の底上げを目標に、レベルアップしていくことはもちろん、トレセン活動の大きなねらいが個の育成であることを忘れず継続的に努力していきたいと思います。

今後、参加した選手が常に向上心を持ち、感謝の気持ちを忘れることなくそれぞれの道に進み、室蘭地区サッカーのレベルを上げてくれることを心から期待したいと思います。

選手の皆さん、スタッフの皆さま本当にお疲れさまでした。

